TOKYO PACK で行ったセミナーの一部(ディスカッション部分)を 日報ビジネス株式会社発行の「包装タイムス」2023 年 1 月 16 日号に採録いただきました

tokyo-pack.jp/seminar/seminar06.php

国立環境研究所 × マシンガンズ滝沢秀一 × 日本包装専士会: Z 世代が問う未来への課題~パッケージ、食品ロス~

TOKYO PACK2021では、国立研究開発法人 国立環境研究所で都市ごみ研究の最前線を行く 稲葉陸太氏と、芸人でありごみ清掃員として 自治体のごみ回収現場の最前線で身体を張る滝沢秀一氏とともにパネルトークを行いました。「家庭系プラごみの一括回収」「2050年の スマートシティのごみ回収のあり方」のテーマに対し、それぞれの立場から議論を展開しました。

2回目となる今回は、生活者サイドにさらに寄り添うことを目的に、Z世代を交えて意見のキャッチボールを行います。気候変動やプラスチック問題、食品ロス問題など世界共通の課題に対し、包装産業としてどのように社会に貢献し、発展を続けていくのか、トークを通して皆さんと考えます。

開催日

10月13日 (木)

時間

10:15 ~ 11:45

開催場所

会議棟605



講師:稲葉 陸太 氏

国立研究開発法人 国立環境研究所 | 資源循環領域 資源循環システム研究室 主任研究員



講師:マシンガンズ 流沢 秀一氏

株式会社太田プロダクション | 環境省「サステナビリティ広報大使」・お 笑い芸人・ごみ研究家



講師:橋本 香奈 氏(日本包装専士会)

缶詰技術研究会 | 編集部・部長

ジェクトの発足は2

要課題として取り

なお同プロ

国立研究開発法人

陸太氏

資源循環システム研究室

研究室 主任研究員 国立環境研究所 容

資源循環領域

を重ねている。

PAUKN

専門家の意見をもと

未来市場の研究

座・学・官の有識者や

系プラごみの一括回

021では、

促進法」をきっかけ

装専士会では、この

ト集団である日本包

危機的状況を見逃す

己装の未来予測プロ

一のなかで

講師

装技術のエキスパ

大を見せている。

以前にも増して急拡

その取り組みは

フスチック資源循環

進むなか、昨年4月

10

始まっ

たプ

ラ新法

期待とは!!

技術士(経営工学部門) 香奈氏 缶詰技術研究会

編集部·部長 大和製罐では食品用途のプラスチック包装・容器の研究 2021年4月から缶詰技術研究会へ出向し、月刊 装業界での情報発信を数多く手掛けている。滝沢秀一氏と

への執筆依頼をきっかけに親交を深めてき

た。日本包装専士会では「2030年包装の未来予測」

ーとして、TOKYO PACK 2018以降、当会展示ブースに未

講師 兼 ファシリテ

品ロス」の現状と包 ジ、食品ロス~」をリ 行われた同会主催の PAUKNONNE ス・リユース」、「② 中心に、「①リデュー れたパネルト への課題~パッケー 「乙世代が問う未来

(第3種郵便物承認)

昨年のTOKYO た。今回本紙では、 会場に足を運ん

マシン ごみ研究家 環境省「サステナビリティ広報大使」/お笑い芸人 太田プロダクション ガンズ 滝沢 氏

ごみ収集現場のリアルな日常をコミカルに

家庭ごみから見えてきた食品ロス問題を取り上げ、

消費者の意識改革の促進を訴える。また食品ロス問題とそ

ス解決の手がかりを見つけながら、独自の切り口で情報発

信に取り組む。今回の登壇は、TOKYO PACK 2021の日本

包装専士会セミナーに続いて2回目。プラスチック包装の利

点を強調しながら、消費者への周知徹底の重要性を説き、

の背景に潜むライフスタイルとの関係性にも着目。

包装業界の未来に向けエールを送る。

講師 ネリスト

多くの業界人が未来

への気づきを得るた

画。コロナ禍のなか

をテーマに講演会&

クを企

こみ回収のあり方」

トシティの

ライフサイクルアセスメント (LCA) を用いた分析研究 「パッケージと食品ロス」の関係性を表す モデル手法の作成に取り組み、双方を巡るトレードオフ構 一方策の提案に力を注ぐ。 「2030年包装未来プロジェクト」を基 軸に連携を重ねてきた。未来への分岐点である2030年にお ける課題を整理しながら、2050年におけるシナリオも検討。 炭素資源の地域循環共生圏も見据えた、有益なリサイクル システムの確立を目指す。

優菜氏

莉紗氏

農工大プラごみ減 国立大学法人東京 パネリスト 場し、農工大学

参加者 講師 兼 ファシリテーター

来予測を発表している。

橋本 香奈氏

講師 兼 パネリスト 稲葉 陸太氏

講師 兼 パネリスト

マシンガンズ 滝沢秀一氏

国立大学法人東京農工大学 農工大プラごみ減らし隊 青山優菜氏/松永莉紗氏/木村将成氏

主に使い捨てプラ た発信活動のほ -0 X C-

し、

今は使い続ける

と

、

今は使い続ける

と

どうあるべきだと思い





セミナー会場の様子 発信や、リ然、地域市 先進的なモ とかもしれ かるのは致 を始めてお 環境省では ません。し ります。当 の実証試験 なパターン 援事業を公 かし現在、 色ん きしたいと思います。 ます。では次に**Z**世代さんありがとうござい さい 学・農工大プラごみ減 東京農工大

品パッケージの場合、

食品衛生法の基準をク

橋本 やはり健康面の

ですが、大学の授業で ですか。 ぜひとも 率直 のような印象をお持ち 木村将成氏(以下木村) 本村将成氏(以下木村) チック問題を機に、 学んだマイクロプラス たり前に存在するモノ 生活の一部という、当 そもそもプラスチック のイメージは一変。健 のも事実で、

木村さん の確保に向け、再生材の確保に向け、再生材 っていないのが現状でのプラスチックリスク だ、生活者に正しい情 リアしなければ市場流 然界に放出されたあと ルがあります。また自

り9割近くが乗り気で 報告されています。 残 しょうか。そして、本 石、ようやく約6割の イクル法」も、スター イクル法」も、スター 当に広がるのでしょう 万全な状態で始まった

たい についてです。以前、 についてです。以前、 見学した某企業のプラ についてです。以前、 は自動で選別作業が行 かれていました。一方、 自治体施設や多くのリ サイクル工場では、ほ サイクル工場では、ほ も注目したいところでもに、作業面の変化に 合、繰り返し使えるリターナブル瓶を私は選をします。強いて 思うパッケー けると嬉しいです。 選択肢もご用意いただ

について、もう

一つ思 望んでいます。 ナブル瓶があった場 PETボトル、リター 飲料水を購入する際、 る人でも「欲しい」と 木村さんが言った通 意いただければ、とて ラスチックを不安視す も嬉しいですね。仮に 私たちのようなプ

治体)にとどまり、5 数はわずか2%(31自 でにプラ分別回収に取 村アンケート、202 調べ(プラスチック分されており、環境省の よると、 55自治体のうち、回答した1 討する自治体を含めて 年以内に取り組みを検 す。問題よくなど、それらを統括する を募っていければと思ら、参加自治体の拡充

容器を使うという選択

31 (2%) 「分別回収後リサイクル」 66(5%)「分別回収後熱回収等」 40 (3%) 「3年以内 らかになるまで、他の知なのですが、できれ 1,273団体 (87%) 「未定」 実施期間:2021年7月20日~8月10日 ※総務省データ全市区町村数:1,747団体(2021年8月時点)

·20 (1%) 「1年以内に分別回収検討」

日報ビジネス株式会社発行 「包装タイムス」2023 年 1 月 16 号掲載 無断転載禁止

イ容器持参の量り売りショップが人気

般ごみの混入はリサイクルを阻害

らす行動につながって

り組む人も増えるので

たことがあります。

そんな魅力的なお店が

それと同時に製品を作

反ではないので、

自然とリデ

持ちが宿っているよう

廃棄にも

の廃棄部分に目を向け

る生産者側にも同じ気

図ることができます

ーションを

伝わってくるのです。

で個人的な意見です

の場合、

力や視力の衰

費者のなかでも高齢者

費者の双方にあると感 費者の双方にあると感

ルを施しています

スも

サイク

また2024年末ま

もちろんル

えとともに、

のまま捨ててしまうケ

スもあるかと思いま

うに感じ、

生産者と消

任制度)の適用が定ま

治体の職員やボランテ

ごみ回収業

と呼ばれるオ

ルが成り立っているよ

動画でおさ

費者への責任が薄いよ 責任を共有するには、 制度設計が重要ではな いでしょうか。

与したりすることで、 別不可能マーク*を付

製品にはその分、手数やリサイクルしづらい

青山例えば廃棄処理

きな差が生じていま

。そのようななかで、

が大事だと言われてい

ごみ問題だけに

広く市民の声

に応じた仕組みづくり

地域の特性

初めて聞きまれ

よって罰則レベルに大

持続的な活動が求めら

ています

た活動が浸透し始め

与えられており、

国

これについては、

- スもあるようで

プラットフォー

スの参加型民主主義

当それぞれに 裁量権が

原法であるため、

加盟

者の方が対応するなど

EU指令の措

料を上乗せしたり、、分

界サイドから出ている

ふうで、米国でも州ご

の特性を理解するとい

なるほど、

も考えられます。環境との差別化を図るなど

ます。日本でもEPRとにEPR法案を可決

リアルノトは変わりますが、マ

を吸い上げるオンライ を吸い上げるオンライ を吸い上げるオンライ を吸い上げるオンライ

市でも活用されてい

責

に煩わしさを感じ、

奮闘により、リサイク方々や中間処理業者の

でに、

全ての包装材に

LPR(拡大生産者青

支援の活動が増えてお

地域によっては自

が、最近では「Dec

m(デシディ

5

守りを兼ねたごみ出

がするのです。あくまは、少し違うような気

そうです

例えば消

スですね。意識変化と

化を促す新しいビジネ

まうのですが、自然に

消費者の意識変

も機械的なコミュニケ

出せば終わり」、

「誰か

儲かっているわけで、

の廃棄方法について 和葉 たしかに使用を

責任は誰にあると思い

に包装廃棄物について

しても発生し

全てを回収の対象

徹底的にリデュ

なる高齢者に対し、

聞いて、リサイクルの尋ねますが、今の話を

リサイクルの話を

が後処理してくれる」

廃棄後の処理負担を全

自治体が受けるの

をくみ取る必要があり

主に生産者と消

消費者の行動観察

ますか。

が、その多くが「家から

物の場合、どうして

有料化が「ごみの削減」

指定でみ袋の

会話が生まれるバルク

といった状態で出され

温かな

にけで、

ごみ所有者の

に効果的だったと聞い

ーカー

店です。

おいて、

「リサイクル

ンディファン)が可燃と、ごみで捨てられたあいトコンベアで火災を

にはなっているのですれ、剥がしやすい設計

れ、剥がしやすい設計

うな事例については、

ホトルを 携

度も高く、

業界内の関心

ており、

とっても心地

のことを覚えて下さっ

か」ということを検討

損失を出した自治体が起こし、1億円以上の

は)さらに踏み込んだ

(包装業界として

れわれ、包装業界も積がいたでも改善できる

消費者に周知すること

も必要だと思うの

で

果物の発生を抑制する

にめの手続きのこと

規格や分別の大切さを

をいですね。 極的に取り組んでいき をいでする。

べきだと思うので

の一つかと思われます。

ジリユースの事例

できました。

普段の買

のごみを見てきました

良い交流を結ぶことが

私自身、

たくさん

を業は売れた台数分、 を業は売れた台数分、 を業は売れた台数分、

実証実験がスター

使った給水サ

ビスの

リユースボー

とた際、お店の方が私 を器を返しに再度訪問 にです。初回で借りた

仕上がっているかどう

全体でアイフ

イデアを出し

-スの事業化が実現で

あれたバルクショップとは、マイデュップとは、マイデュップとは、マイデュップ

バルクシ

いです

友。

大手

パッケージなしの小売持参で買い物ができる

が、やはり設計段階にを前に大変恐縮です

してハます。 型奏巻型境負荷の最小化に注目

ビジネス活動による環

必要かと思われます

ではここで滝沢さん。

重ねてまいりました。

ります。夏場、万が一と

れていることが多々あ

燃ごみと一緒に捨てら

いまだに可

ならではの視点ですね。

なるほど、

現場

常に惜しみない努力を

技術の確立を目指し、

資源回収をする立場か

人品の市場流通など、

リが展開するリユ

意形成に向けたコミュ

大手フリマア

しています。

包装業界

訪れるで、少して、一つ、共有したいこと

クル促進に向け、どの

な被害を起こす原因に

なりかねません

ッケージのリサイ

もつながるなど、

大き

サイドに責任が求めら

み収集車の火災事故に

に捨てた場合、

消費者

れが発火した場合、

えばラベルを剥がさず

飲料についてです

うことはPETボ

ろから着手する、

あともう一つ思

らな検討を進めるべ

お教え下さい

内蔵された扇風機

リチウムイオン電池が

た方が良いことを十分

しています。

ラベ

滝沢さんが言わ

ちろん消費者は剥がし

がかかることなど、

ぐできることと、

れたりしますよね

余裕」ですか。とても大

なるほど「心の

ッケー

ル」についてです。包装

事な観点ですね。

個人

りません。住民との合

ないでしょうか

ことにつながるのでは

る余裕がごみを減らす

れています。一方、デメ

ットとしては料金設

続いて二つ目の

「プラスチッ

と大変助かります

例えば、皆さんご存

ばなんて思いますね。

する効果が多く確認さ

を省くことも大事だと

査でも「ごみ削減」に対

います。心に生まれ

際の「手間」や「我慢」

育山優菜氏(以下青山)

については、

加えてごみを減らす

6割の自治体が実施

ており、アンケ

互

使い捨てを減らす

仕組み作りが必要だと

ます。

ドがリデュースやリユしく」というキーワー ースには必要というこ サ ルを考慮 います。若い世代が魅

す広がりを見せると思 ら今すぐスタ 力を持ってくれるよう 極的に提案していかな がな秘策を包装業界が積 ます。 包装設計 たプロダクト設計、

みを伺ったことがあり 催立できれば、 が安価で買える、

が進んでいます。

移行するうえで、今す 現レベルはさまざまで な製品づくりやサー 应うのです 〈供給が実現できると サイクルの責任領域 「消費後段階」まで していると聞きま そういえば欧州 すでに製品ライ 稲葉さん、 持続的 ではなく、彼らが得意なり導入」ということ

で取り組む詰め替え用

法ではないかと感じま

ともに、課題解決の

DX技術の進化と

につい

てで、

ドイツの

ロスの関係性」

橋本

「食品ロス削減

の皆さまには、今

今まで

学生

ハン屋さんにおいて、

滝沢さんお願いしま

たいです。そして滝沢の努力と成果への理解

」、清掃員の立場から

と食品はま

「パッケー

その研究テ

えていきたいと思いま

がら、

日々、

包装と向

うな思いを強く抱きな

来を作りたい。

そのよ

ジを通じて、

明るい未

ら、皆さんと一緒に考

可能性を広げていける

量を減らせる可能性が

存に大きく貢献し

してま

りました。

パッケー

あります。さまざまな

道になることを期待

直置き

したパンと個包

、どちらが食

滝沢

極論になります

さん、

稲葉さんとも引

の品なのの別

べたもので、結

サイクラー

が共創

ボトル回収や、

自

の P

日用品メー

ウチの回数活動など

新葉

一次の

一次の

一定が

あります。

プラス

で

一次の

一次の<b

組んで 心いる研究テーマ 体力的に分別作 超高 徴収するかなど、 まな課題が出てくるこ とも想定できます。

必要なのかもしれませ、 徴収するかなど、地域 を言われています。 一 参加」が最も効果的だ 組み作りには、 を表して、 「食品ロス」 を表して、

るといった方法を用い 治体の審議会に参加す ることが多いのです 抽選で選ば す。農業ボラノニィアれる農作物のことで 思いますが、 んから伺い す。 農作物の過剰生産を挙 場流通されずに廃棄さ 過剰生産とは、 論じたいと思いま たくさんあると ここでは

合が全体の約2割を占は、この未出荷量の割 に参加した友人の話で 農業ボランティア ス発生の原因は、 私が思う食 行った際、求め 者の心に根付く と思います。 ロス削減にもつながる =悪」との価値観です 私が思う食品ロ パン屋さんに 求めていた 「欠品 消費

隣に並 から取りなさい」と言 痛感しました。 われた世代ですからね 台、母親にさんざん「奥 を学んでいるからでし 学校の授業でSDGs 意識の違いを 私の場

それについてはパッケ 測の精度向上な 技術革新や消費

無残に捨てられる食材 『受け入れる』ことの

食品ロスを防ぐプラスチックパッケージ

パネルト ークを終えた登壇者たち

できることか

たという包装企業の試 を、包装設計に生かしめた高齢者の行動観察 包装設計に生か

が大切なのかもしれま 実現できるとこ これ いうビジネスモデルが ほどではないのが現状

本もこの考え方に近付 くことは可能でし 法制度の改善プロセス 取り入れながら、なる などを学び、それらを とする仕組みづくりや に措置法を作っていく 日本に合っ

日本全国に広げた場

テーマ③ 食品ロス

欠品 = 悪

か

5

脱却

品ロス

削減に貢献した

講演や書籍、

SZSC

きました多様な意見を

個包装の方が食

いでしょうか。

前半の

皆さんを交えていただ

八ひとりの意識ではな

やっぱり消費者一

おながら、本日をで表き、情報交換を重

ことが

鮮度保

もご紹介しています

参考に、

再生材の安全

う側面からその

が、手つかずの高級食

がそのまま捨てられ

ル方法の構築を目指し

てまいりたいと思いま

確保と優れたリサイ

ような

効果が表れたよ

します。先日もメロンている光景をよく目に

最後は消費者の意識改革

これらを

地域ごとにさまざ

取り組みだと思うので

ルジャ

がそれで、

とても良い

滝沢

てパンの意見が飛

台器包装および包装廃 場に流通する全ての 決まった方向性がある 方法には、何かすでにごみの回収方法や処理 らも稲葉さんに質問で 高齢者が増え続け

場所や誰からコストを の整備状況なども違う

食品ロス

バランスを図るための

需要と供給の

を買うくらいの心の余

まが食品ロス削減に貢装が食品ロス削減に貢

20歳くら

ツでは

大手外食チェー

した食材

を真空

んでいた。メロンパ

れています。すでに見 業やごみ出しが困難と はり支援システムの構 すでに見 般的には、 た一部の人のみが自

が発生してし 担も減り、司権と、と、と、 予備用として使われて 組みを見直すことがで 裕が大事だと思うので

きも、「スーパーでは 代・20代の人たちは、 ていました。 す」なんてことを言っ 手前取りが当たり前で やはり10 食品口 るというトレー れてい たくさ 別化によって使い上パックの状態で ます。 とができたり、

ス削減に対し、 んの効果が生ま 包装量が増え されると思います。でも高まり、少しは解消 ールを消費者自身がすが、それを実際に行 ルで食品流通が構築で ようなロー 食材への意識

ば、木箱に入った高級 た。基本りていたりし れていたり、お中元・ 基本的な改善方法 がそのまま捨て 地産地消の しまし ります。今回の講演を使い捨てパッケージの 使い捨てパッケージの 循環型社会の構築をは の構築をは 機に、地 ありがとうございま に何ができるのか、各機に、地球保全のため で活躍されることを期 それぞれのフィ 者の皆さまが、 幸いです。そして登壇 自で模索いただけると いと思います。 講演を終わりた で清聴 今後も

学生たちの意見に耳を傾ける稲葉氏(右から2番目) EUや米国 では先行的な取り組み

市民参加型 地域システムを



スキンケア

サイクルへ広がり始めた「店頭回収」実証実験 からパン屋の話が出まりたので、以前、私が見つけたパンにまつわ

どによって、 包装出荷 本講

食品ロス削減や長期保包装業界では長年、

ありがとうございました。それでは私の方から最後に一つ、包装業 別を代表し、サーキュ ラーエコノミーへの想 いを述べたいと思います。 橋本 とを願っています。 皆さま、長時間

です 少しでも改善されると 消費者の意識が 食品ロス削減に

包装業界への想いを語る橋本氏

方が重要だと思うわけ

日報ビジネス株式会社発行 「包装タイムス」2023 年 1 月 号掲載 16 無断転載禁止